

# 商店街名：刈谷市刈谷駅前商店街振興組合（刈谷市）

キャッチコピー

明日へつながる商店街～過去から未来へ～

## ◎ 商店街の将来ビジョン（目指す未来の商店街の姿）

### ◇ 地域の状況（2025年度頃）

- 刈谷中心街において、子連れ世帯や若者世帯の増加率は横ばい傾向にあるが、65歳以上の高齢層は年々増加している。
- 刈谷駅南口エリアの発展によって、刈谷駅の印象は南口エリアと認識されている傾向にある。
- 刈谷駅は通勤・通学利用者が大半を占める。



### ◇ 商店街の姿

- 若年層の組合員の考えや意見を積極的に取り入れながら、時代のニーズにあった商店街の長期的な存続を目指す。
- 長く続いてきた賑わい事業等においては、引き続き継承しながら、新しい要素を取り入れ、老若男女問わず魅力が感じられるよう取り組む。

### ◇ 地域の状況（2030年度頃以降）

- 高齢層の増加が引き続き、商店街の店舗においても後継者不足や高齢化による事業撤退等により、商店街としての規模縮小化が予想される。
- 中心市街周辺のマンション開発などが進み、新規移住者が増える。



### ◇ 商店街の姿

- 商店街の魅力を進んでアピールし、市街地からの新規店舗参入者を増やす。また、カリアンナイト等商店街主催の賑わいイベントをより盛大に行う事で、新たな組合加入店舗を増やす。
- 子連れ世帯や若者の参加。
- 魅力を感じられるような企画などを行う。

## ◎ 未来の商店街の姿に至る方法（プロセス）

【構想計画期間：2022年度～2025年度】

桜区等地域や企業との交流を交えながら、イベントや企画について意見交換を行う。イベント参加者や参加店舗にもアンケートを積極的に行い、ニーズを把握する。その後、ターゲットを明確にし、その上で継続的な賑わいイベントの企画などの地域発展行事を行う。

## ◎ 実行体制

### (1) 未来プロジェクトチーム

構成：若手店主2名を含む計6名

### (2) 地域プラットフォーム

名称：若手と未来へつなげる商店街プロジェクト

目的：若手や新規店舗の参入などにより活気ある商店街振興組合を作るべく、時代のニーズにあった意見を積極的に取り入れ、若手が中心となって企画運営を行える環境を作りながら、地域連携を図っていく。

参画：店主、地域住民 ほか

## ◎ 想定・把握している「商店街に対する地域ニーズ」

毎月開催しているカリアンアサイチに関して、来場者数の増加見られることから、需要があると考えられる。コロナウィルス感染症に伴い、約2年半開催できなかったカリアンナイトを、6月に開催したが、大変多くの賑わいを生み、ニーズが高いことが分かった。また、その際にアンケートを実施し、多くの意見を得ることが出来た。

地域の意見では、刈谷市桜区が長年行ってきた盆踊りのイベントを、刈谷駅前商店街で引継ぐ事で、子ども会がなくなってしまった桜区の地域の子供たちの行事を継続してほしいという声があった。